

行田まちなか再生プラットフォームによる「行田たび『あるく』まちづくりビジョン」の策定と普及方策

Development and Dissemination of the “Gyoda Walking Town-Making Vision” by the Gyoda Urban Core Regeneration Platform

鈴木 優雅^{*1}, 今井 弘^{*2}

Yuga Suzuki^{*1}, Hiroshi Imai^{*2}

ものづくり大学大学院ものづくり学研究所

Institute of Technologists, Graduate School of Technologists

Email: g02421010.y56@iot.ac.jp

あらまし：本プロジェクトは、人口減少や活気の低下という課題を抱える行田市において、官民学の連携により「観光」「農業」「ものづくり大学」を軸とした「行田たび『あるく』まちづくりビジョン」を策定し、AI生成画像を用いた動画やWebサイトによる視覚的な情報発信を通じて、地域住民の共感と主体的なまちづくりへの参画を促す。

キーワード：行田市，都市計画，未来ビジョン

1. はじめに

行田市は、埼玉県北部に位置している。忍城を中心として栄えた街並みが現在も残っており、足袋のまち、足袋の産地を物語る「足袋蔵」が多く点在することとなっている。しかし、人口減少や産業構造の変化に伴う衰退が課題となっている。

2. 背景と目的

本プロジェクトは、国土交通省の官民連携まちなか再生推進事業エリアプラットフォーム活動支援事業である「行田まちなか再生エリアプラットフォーム」プロジェクトに関連するものである。対象エリアを秩父鉄道行田市駅周辺エリアとし、たび（足袋・旅）「あるく」が楽しい街において豊かな環境と暮らしの実現を目的としている⁽¹⁾⁽²⁾。本プロジェクトは、「行田たび『あるく』まちづくりビジョン」を策定し、持続可能な将来像を提示する。さらに、策定した未来ビジョンを単なる計画案に留めず、地域住民や関係者に広く普及させ、将来像に対する「理解の促進」と「共感の形成」を図ることを目的とする。

3. 行田未来ビジョン構築研修会による未来ビジョン構築研修会

2024年7月20日、9月14日、11月2日の3回にわたり、研修会を行田市男女共同参画推進センターVIVAぎょうだにおいて実施した。

3.1 第1回研修会「行田のロードマップづくり」

「地域づくりとは何か」をテーマとし、行田の将来像を描くための基盤形成を目的として実施したものである。研修会では、行田市の現状を整理し、将来に向けたロードマップを作成した。ワークショップは、①現状把握(NOW)、②将来像の共有(AFTER)、

③目的の明確(WHY)、④行動の検討(ACTION)の4段階で構成された。

3.2 第2回研修会「行田のシステムマップづくり」

「システム思考」をテーマに、地域の課題や可能性を把握することを目的として実施したものである。「行田を知る」ことを目的として、参加者が個人およびグループで行田市のシステム構造を分析した。まず、(1)景観形成、(2)生活利便性、(3)商業、(4)商工会議所、(5)農業、(6)商工と交通・ものづくり大学、(7)結婚数と人口減少、(8)観光客、(9)若者人口の9つのテーマについて個別にループ図を作成した。これらをグループ内で共有・統合し、「行田市全体のシステムマップ」として再構成した。その後、完成したマップを基に、「施策」「内容」「インパクト」を検討し、行田の未来に向けた構想を具体化した。

3.3 第3回研修会「未来ビジョン案の策定」

「ビジョン戦略ピラミッド」を用いた未来ビジョン案の策定を行った。ピラミッドは、ビジョンを実現するために必要な要素を階層的に整理したものである。グループワークにおいては、第2回研修会で作成した「施策・内容・インパクト」の成果物をもとに、印象的または重要と考えられる要素を抽出した。これらを行田システムマップと照らし合わせながら、ビジョン戦略ピラミッドの構造に沿って再構成した。さらに、策定したビジョンを行田市基本構想に示される将来像(Scene01~06)に対応づけ、どの将来像に結びつくかをグループごとに検討した。

4. 行田たび「あるく」まちづくりビジョン策定

4.1 行田市基本構想

未来ビジョン策定において重要な位置を占めるのが、行田市の将来像を示した「行田市基本構想」である。構想における「行田市の将来像(ビジョン)」は、将来のまちの姿をScene01~06として描いたもの

であり、市が目指す長期的な方向性を明示している。
4.2 行田たび「あるく」まちづくりビジョン

官民学の多様なメンバーが参加した「行田未来ビジョン構築研修会」を通じて策定されたものである(図1)。策定過程においては、行田市基本構想に示された将来像(Scene01~Scene06)を参照しながら、行田の未来をどのように描くかについて検討を行った。その結果、多様なビジョン案を整理し、行田の未来を考えるうえで特に重要な三つのテーマ「観光」「農業」「ものづくり大学」を抽出した。これらのテーマを軸に、基本構想との対応関係を明確化しながら、「行田たび『あるく』まちづくりビジョン」としてストーリー化したものである⁽³⁾。

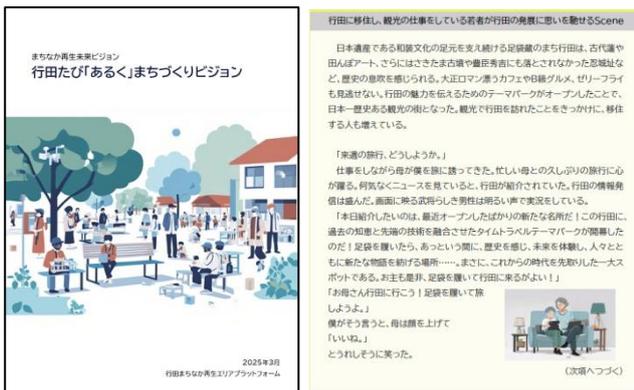


図1 行田たび「あるく」まちづくりビジョン

4. 普及方策

普及の目的として策定された未来ビジョンを単なる計画書として終わらせず、地域全体で共有される「生きた指針」へと昇華させることを目指している⁽⁴⁾。

5.1 視覚的理解を促すテーマ別動画の制作

文章や図面だけでは伝わりにくい「感覚的なイメージ」を視覚的に補完するため、地域の将来像を象徴する「観光」「農業」「ものづくり大学」の3つを主要テーマの動画コンテンツを制作した(図2)。

制作のプロセスにおいては、画像生成 AI ツール「Dreamina」を活用することで、言葉では表現しきれない情景や、現実にはまだ存在しない未来の風景をイラスト画像として具現化した。こうして生成された素材を用い、視聴者の感情に訴えかけるストーリーラインを構築した上で、編集ソフト「iMovie」により字幕の可読性やテンポを精査し、誰にでも分かりやすい映像作品へと仕上げている。



図2 3つのテーマ別動画

5.2 情報を包括的に集約したプラットフォーム (HP)

の構築

動画を制作しただけでは、目的である「地域全体の理解と共感」には到達できない。情報発信の拠点として、Google サイトを活用した「未来ビジョンホームページ」を構築した(図3)。ホームページは、単なる情報の提示に留まらず、ビジョンの背景から現在の活動までを包括的に集約する「協働のプラッ



トフォーム」としての役割を担っている。

図3 未来ビジョンホームページ

5.3 「まちラボ行田」による社会実装と共創の展開

プロジェクトの核心は、策定された未来ビジョンを単なる計画書で終わらせるのではなく、地域活動を誘発するための「生きた指針」へと昇華させることにある。その中心的な役割を担うのが「まちラボ行田」である。構築した「未来ビジョンホームページ」と「まちラボ行田公式サイト」を相互に連携させることで、閲覧者は将来像への理解を深めると同時に、その受け皿となる組織の活動概要をシームレスに把握することが可能となった。

5. 結論

行田まちなか再生エリアプラットフォームの活動を通じて地域資源および課題の可視化を図るとともに、住民・専門家・学生の連携による「行田たび『あるく』まちづくりビジョン」の策定を実現したものである。特に「観光」「農業」「大学」の三つのテーマから構成されたストーリーは、行田の将来像を具体的にイメージさせる内容であり、ビジョンは「MISSION」という形で具体的な行動案にまで落とし込まれている。現在は民間が主体となり、産官学連携のもとで2025年度から新たな形で継続的な展開が始まっている。本プロジェクトで構築した映像による効果的な情報伝達とホームページによる包括的な情報発信を組み合わせた普及モデルは、地域住民や関係者が共通の将来像を共有し、持続可能なまちづくりを推進していくための有効な基盤になると期待される。

参考文献

- (1) 蕨塚奈, 田尻要, 守家志, 木村奏太: 行田市中心市街地の活性化施策が住民のまちづくり意識に及ぼす影響に関する研究, ものづくり大学紀要 2020, 8
- (2) 中村公亮, 田尻要, 守家志, 木村奏太: 行田市中心市街地地街地の活性化施策に関する経年劣化に着目したまちづくり意識の基礎的研究, ものづくり大学紀要 2019, 7
- (3) 福井県鯖江市: 鯖江市まちづくりビジョン策定報告書, 2022.
- (4) 静岡県三島市: 三島市スマートシティ推進戦略, 2023.